

2018年 11月10日(土)・11日(日)・17日(土)

「～聴いていますか 子どもの声を～ 子どもたちの今」を知る 公開講座(仮称)

友だち関係で悩んでいる子ども、親や先生の期待に応えようと苦しんでいる子ども、
障害のある子どもに寄り添うにはどうしたらいいの? 子どもの声を聴くってどうしたらいいの?
子どもの思いを理解し、子どもをサポートするおとなのための講座です。

11月は
子どもの
虐待防止
推進月間

日程	時間	講座タイトル	講師
10日(土)	10時～12時	さあ 自分探しの旅に出かけよう	島川武治(環境レカース)
	13時～15時	居場所で聞こえてくる子どもの声	幸重忠孝 (子どもソーシャルワークセンター)
11日(日)	10時～15時	話すことを支える支援(仮題)	宮脇 宏司 (ふりせ心理ストレス相談室)
	15時～16時	こころんダイヤル・チャイルドラインとは	こころんダイヤル NPO法人CASN
17日(土)	10時～12時	ネット社会と子どもたちの実態	原 清治(佛教大学教授)
	13時～15時	近すぎて見えないもの ～養護学校の子どもの出会いに始まる日々～	森安英恵 (種水化学工業株式会社 監査室監査部長)

●対象:高校生以上 ●参加費:無料 ●定員:80名程度 ●会場:滋賀県庁内会議室

子どもからの電話を受けている方、子どもからの相談を受けている方、学校の先生など子どもに関心のある方ならどなたでも参加できます。

[お問い合わせ・申し込み]

NPO法人CASNカズン Fax:077-537-5922 Email:info@casn.org

滋賀県こども・青少年局 Tel:077-528-3551 Fax:077-528-4854 Email:capdvup@pref.shiga.lg.jp

みなさまご協力ありがとうございました。

～2017年度「赤い羽根 子どもへの寄り添い募金」に471,546円～

昨年度は25名の方々から募金をいただきました。いただいた募金に滋賀県共同募金会からの加算助成金を加えて、624,546円をいただきました。

この募金は全額チャイルドラインの運営に充てさせていただきます。

事務所代、電話代、講師料、カード・ポスター・報告書の印刷代に加えて、遠方から時間と費用をかけて電話

を受けに来てくれる受け手の交通費の補助が可能になりました。今年も1年、皆様からのご支援で継続することができます。ありがとうございます。

この募金は今後も継続して参りますので、引き続きのご協力をよろしくお願いたします。募金の方法など詳細は同封のチラシをご覧ください。

協力のお願い～カズンオリジナル「一筆箋」～

「一筆箋」

挿絵でおなじみの村田さんの4種類の絵柄で縦書き横書きができます。

「子どもの絵がかわいい!!」と大好評です。ぜひプレゼントなどにもお使いください。

1冊 500円

*メールかFAXでご注文数、お渡し方法、支払方法、ご連絡先(氏名、メール、FAX)をお送りください。



ご寄付/一筆箋 お振込先: 郵便局口座 00970-7-156887 カズン
滋賀銀行大津駅前支店 普通 538073 NPO法人CASN理事長 谷口久美子



編集後記: 猛暑、酷暑お見舞い申し上げます。かつてない雨量、暑さ、この大変な事態、身の安全を守るにはどうしたらいいのでしょうか。自分にっていちばん大切なものは? 今までは違う明日の事を考えるタイミングは……今できる事はありますか? 追いつめられる事はありますが、ぜひ普通の当たり前の生活がやってくる日を祈って、どうかどうか皆様ご自愛ください。 河合美紀子

カズン
Children's Action Support Network
「指導者」から「援助者」へ「先導者」から「伴走者」へ
子どもに向き合う大人たちによる組織
http://www.casn.org/

発行:2018年8月15日(水)

CASN広報誌

第41号



NPO法人CASN事務局
〒520-0843 大津市北大路 1-4-15
TEL/FAX:077-537-5922
MAIL:info@casn.org

しがチャイルドライン:18歳までの子ども専用電話

☎0120-99-7777 毎週金曜日・第一火曜日開設

「もう一度、社会と出合い直す」

一般社団法人セレンディップ
小林 勝

初めまして、セレンディップの小林と申します。
このたび、CASNの広報誌の表紙にお邪魔できたので、セレンディップの活動を伝えられたらと思います。

セレンディップは、18歳以降の就労と福祉の隙間を埋める支援をしています。

平日は毎日プログラムを行っていて、それぞれ自分のペースで通っています。仕事に就けない、なかなか仕事が續かない、高卒・大卒時に進路未決定な、ひきこもり期間が長く、とりえず居場所が欲しい、そんなきっかけでセレンディップに通う人が多いです。年齢は18歳～40代(今まで)。障害の有無は関係なく、ひきこもりや、就労の相談からつながることもあれば、障害の相談からつながることもあります。もちろん本人や家族からの相談もあります。

18歳以降は教育の支援がなくなり、就労支援かひきこもりの相談しかありません。もちろんこの二つは必要ですが、セレンディップでは加えて何

気なく通える場所。自分のペースで通える場所。他者や自分、大人への信頼をもう一度獲得する場所が必要だと考えています。

そんな若者と、日々料理したり、体を動かしたり、農作業したり、ヨガしたり、写真散歩したり、イベントを企画したりしています。特に変わったことはしていませんが、今通っている若者の興味のあること、できることに合わせて2週間ごとプログラムを考えています。大事にしていることは、職員も一緒にやること、職員が一方向的に教えないこと、生活のなかからできることを増やすこと、生活を楽しむこと。そのなかで、自分がこれならできると思ったり、自分のしんどさが整理されたり、親との冷却期間になったり、人との関わりに慣れたり、自分がどうやって社会に参加するかが少しずつ明確になっていきます。

セレンディップに来ることで、ぼちぼちでも生きていいんだ、生きる方法があるんだ、生きていいんだって思ってくれたら最高だなと思っています。

